

気候変動関連の取組

令和8年2月3日

文部科学省研究開発局環境エネルギー課

気候予測・地球環境データ等の利活用に関する研究開発

- 文部科学省では、気候変動適応法等に基づき、環境大臣が策定する気候変動影響評価報告書に科学的知見を提供する等、**最新の研究成果等を踏まえた気候予測等に関する科学的知見の創出や気候変動等に関する情報基盤（DIAS）の充実・強化を推進。**
- 各国政府の気候変動に関する政策や民間企業の活動の基礎及び科学的根拠となる「**気候変動に関する政府間パネル（IPCC）に科学的知見を提供し、気候変動に関する国際的な議論に貢献。**

気候変動適応戦略イニシアチブ

令和8年度予算額(案)：548百万円

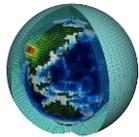
令和7年度補正予算額：529百万円

令和8年度予算額(案)：379百万円



気候変動予測先端研究プログラム

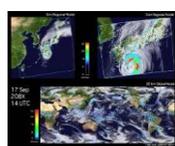
気候モデルの開発等を通じ、**気候変動メカニズムの解明**や、全ての気候変動対策の基盤となる**ニーズを踏まえた高精度な気候予測データの創出**を実施。



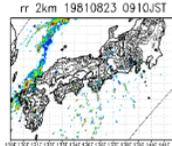
独自の全球気候モデル



気候モデル MROCC



温暖化した世界及び日本周辺の予測



rr 2km 19810823 0910JST

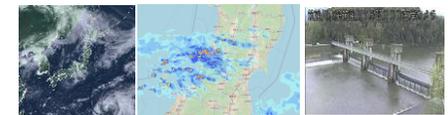
気候予測データを
DIASに掲載

地球環境データ統合・解析プラットフォーム事業

気候変動、防災等の対策に貢献するため、**地球環境データ（観測データ・予測データ等）を蓄積・統合・解析・提供するプラットフォーム「データ統合・解析システム（DIAS）」を整備・運用するとともに、プラットフォームを利活用した研究開発を推進。**



データ統合・解析システム（DIAS）



観測データ及び予測データ

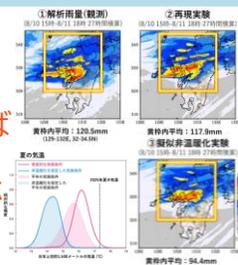
✓ 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）への貢献や、過去データに加え科学的な将来予測データも活用した気候変動対策のパラダイムシフト等に向けて科学的知見の充実を図る

【成果例】

地球温暖化の影響分析（イベント・アトリビューション）

異常気象に関する地球温暖化の影響を**イベント・アトリビューション手法**により分析（令和7年9月報道発表）

- 令和7年夏の記録的な高温は**地球温暖化がなければ起こりえなかった**
 - 令和7年8月上旬頃の熊本県を中心とした**大雨の総雨量が地球温暖化により約25%増加**した
- 上記の分析結果が各メディアで報じられた。



リアルタイム観測データを用いた浸水予測システムの開発

- 実在の都市インフラの詳細な情報及び降雨のリアルタイム情報・予測値を用いた精緻な浸水予測システムを開発
- 地方公共団体によるハザードマップ作製や避難情報の提供、リスクを踏まえた都市開発等へ支援。



今後の気候変動研究及び地球環境データ連携基盤の在り方等に関する有識者会議

今後の気候変動研究の推進の方向性及び地球環境データ連携基盤の在り方等についての一体的な検討に資するよう、文部科学省がこれまでに推進してきた気候変動研究や、地球環境分野のデータ連携基盤としてのDIASの成果と課題、国内外の関連動向等を踏まえつつ、専門的な観点等から意見交換等を行うため、有識者会議を開催

主な議題

- ・国内外の動向等を踏まえた今後の気候変動研究の推進の方向性について
- ・気候変動研究の成果等の利活用基盤としての地球環境データ連携基盤の在り方について

有識者名簿

◎：主査、○：主査代理（50音順、敬称略）

- | | |
|----------|--|
| ◎ 今田 由紀子 | 東京大学 大気海洋研究所 准教授 |
| ○ 臼田 裕一郎 | 国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域
総合防災情報センター センター長 |
| ○ 江守 正多 | 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 |
| ○ 沖 理子 | 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター
シニアアドバイザー |
| 城戸 彩乃 | 株式会社 sorano me 代表取締役社長 |
| 高橋 桂子 | 早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所
上級研究員・研究院教授 |
| ◎ 肱岡 靖明 | 国立環境研究所 気候変動適応センター センター長 |
| 本郷 尚 | 株式会社三井物産 戦略研究所 国際情報部 シニア研究フェロー |
| 松岡 大祐 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球情報科学技術センター
データサイエンス研究グループ グループリーダー |
| 横山 天宗 | SOMPOリスクマネジメント GRCコンサルティング部
ビジネスストラテジーグループ グループリーダー |

※ 関係府省庁からオブザーバー参加

IPCC第7次評価報告書（AR7）作成に向けた貢献

- ✓ IPCC第7次評価報告書（AR7）は、当初予定より前倒しされ2029年中に取りまとめられることが決定しており、**作業部会（WG1/WG2/WG3）報告書の執筆が進行中。**
- ✓ 2025年12月にWG横断の執筆者会合が開催（パリ）。
- ✓ 「気候変動予測先端研究プログラム」から、**多数の専門家が執筆者として選定。** IPCC向け気候予測データの創出や論文執筆等を含む**科学的知見の創出が進行中。**



※CMIP7：AR7の基盤となるデータ創出のため、各国各研究機関の全球気候モデルの予測結果を相互に比較するための枠組み。気候変動予測先端研究プログラムも参画。

WG1報告書

-  江守 正多
-  渡部 雅浩
-  大島 長
-  伊藤 昭彦
-  立入 郁
-  リナ・ルニョ
-  河宮 未知生

WG2報告書

-  沖 大幹
- 朝山 慎一郎
- 馬場 健司
- 大田 純子
- 長谷川 利拡
-  山本エヴァ・ミア・シカ
-  花崎 直太
- 飯泉 仁之直

WG3報告書

-  田中 克政
- 小田 知宏
- 長谷川 知子
- 藤森 真一郎
- 森田 香菜子
- 秋元 圭吾
- シルバ・エヴァン・テイロ
- 田中 加奈子
- リック・ザスマン
- 亀井 未穂
- 村上 迅
-  杉山 昌弘

（右表）日本の機関からのAR7執筆者（敬称略）。
下線は、気候変動予測先端研究プログラム専門家。